

## 国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成28年度第10回）議事録

日 時：平成29年1月27日（金）10：00～11：30

場 所：国立研究開発法人国立がん研究センター 管理棟1階第1会議室

出席者：中釜斉理事長、門田守人理事、松本洋一郎理事、児玉安司理事、間野博行理事、  
南砂理事、小野高史監事、増田雅志監事

欠席者：なし

### I. 前回（平成28年度第9回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を門田理事と増田監事に依頼。

### II. 審議事項

- ・なし

### III. 報告事項

#### 1. 厚生労働省共催「がんゲノム医療フォーラム2016」

資料に沿って報告された。

- ・厚生労働大臣から、国民の命を守るため、がんゲノム医療を計画的に推進するという総理大臣指示に基づき、国立がん研究センターを中心にセクショナリズムを越えてがん治療開発コンソーシアムを構築し、来年の夏を目途にプロジェクトを策定する旨が述べられた。

#### 2. 内視鏡治療後の再度の胃がん発生リスク診断法開発

資料に沿って報告された。

- ・ピロリ菌感染歴のある早期胃がん患者の内視鏡治療後に別の胃がんが発生するリスクについて、正常組織に蓄積したDNAメチル化異常の程度を測定し、経過観察したところ、メチル化異常の程度が最も高かったグループは、最も低かったグループの3倍胃がんになりやすいことが分かった。メチル化異常を用いたリスク診断として世界初の臨床研究である。
- ・ピロリ菌除去後の健康人について、胃がんや他のがんの発症リスクなどについても、研究中。
- ・当初、競争的資金で実施していたが、フォローアップの段階は競争的資金になじまず、がん研究開発費（運営費交付金）によって研究を継続することができた。
- ・研究所と病院の緊密な協力による研究成果でもある。

### 3. 経営改善の取組

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・緊縮財政だけでは現場は萎縮するため、融資や債券、寄附といった多様なファイナンスも検討してはどうか。
- ・事務部門における2～3年毎の人事異動がキャッシュ・フロー等の問題の原因の一つだが、これを変えるには一定の時間を要するので、人事異動があっても適切に運営できる形を作ることが重要。また、施設基準や診療報酬、未収金防止など、取れるものや取るべきものをしっかり確保していく取組も大切。
- ・民間からの借入はきちんとした返済計画がないと難しいので、まずは、自ら調達できることを考えていったほうがよい。
- ・センター全体で考え方や目指す方向性を共有していくことが大切。また、現場の職員からの情報の吸い上げにも取組んでいくことが必要。
- ・最近の医療機器は構造が複雑で、高額のマaintenance費用が発生するため、そういった点も考慮して計画を立てるべき。また、センター内での医療機器の共用なども検討が必要。
- ・今後も継続的に報告を行う。

### 4. 平成29年度政府関係予算案（国立がん研究センター関連分）

資料に沿って報告された。

### 5. がん対策推進協議会等

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・次期がん対策推進基本計画に関連し、これまでの取組を踏まえ、がんにならないようにする事が大切。また、エビデンスにかかわらず、タバコや感染等の対策が具体的に進むようにすべき。
- ・個人情報の当面の取扱いを巡る議論は、一旦落ち着いている。

### 6. 広報実績

資料に沿って報告された。

### 7. 12月分月次決算

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・診療件数や診療報酬算定件数などの傾向や状況を確認し、問題の可能性がある場合

は、原因を検証した上で対策を実施するような仕組みとすることが重要。

- B N C Tなどについて、保険適用につなげるなど、過去の問題を繰り返すことのないようにしたい。

#### 8. その他

- 医療従事者の禁煙対策をセンター自ら徹底すべき。